



南部町立南部中学校 学校だより 第17号

千一ム南部中

令和4年12月21日(水)
校長 望月和彦

より良い授業を目指して 授業研究会

部活動や学校行事などは、生徒たちがエネルギーを発散させ、たくさんのことを学び、大切な力を付ける場ですが、学校の教育活動の中心にあるのは生きていくための知識や技能、考え方、感性などを育む毎時間の授業です。本校ではその授業をより良いものにするために、校内研究会という組織をつくり研究を進めています。教科指導を行っているすべての教員が、自分の授業を他の教員に観てもらい、様々な意見やアドバイスを受けて自分の授業を改善したり、反対に他の教員の授業を見せてもらうことで、その指導法から優れた部分を学び、自分の授業に役立てたりしています。また、1つの授業について、すべての教員で授業プラン（指導案）を検討し、実際の授業を全員で観て、その後の研究会で、授業の良かった点や改善すべき点などについて全員で意見を出し合ったり、県教育委員会の指導主事からより良い授業について指導してもらったりしています。

12月9日(金)6校時には、望月大教諭の社会科の研究授業を行いました。3年生の社会科(公民的分野)の「企業の生産のしくみと労働」という単元のまとめの授業でした。日本企業の利益と労働者の賃金、様々な雇用形態、生活スタイルの変化と労働災害、経済格差などについて過去と今、世界と日本を比べながら前時までに知識を蓄えた上で、「これからの働く環境はどうあるべきか。そのためにはどうすれば良いか。」を生徒たちに考えさせる授業でした。企業側の視点と労働者側の視点から最初に考えさせ、その上で、日本の社会全体を考えたときに理想の姿とそのためになすべきかを考えさせていました。Chromebookに自分の考えを入力し、グループ内で様々な考えを共有し、友だちの考えを取り入れながら自分の考えをより深めていました。私が観ていたグループでは「すべての人々が労働に見合った賃金をもらえるようなしくみをつくる」「経済活動を企業にすべて自由にやらせるのではなく、ある程度政府がサポートしていく」「女性が経済でもっと活躍できる仕組みをつくる」など、今まで学習してきたことや友だちの意見を基にして、自分なりの考えをまとめていました。なかなか大人でも難しい問題に中学3年生が挑んでいました。授業後の研究会では、授業の良かった点や改善点について意見が出され、県教育委員会の萩原義晃指導主事からは、すべての生徒が授業に意欲的に参加している姿を評価していただくとともに、授業の指導計画や評価方法についてのアドバイスをいただきました。



高校生から学ぶ 「キャリアセミナー」

12月14日(水)3・4校時に「キャリアセミナー」を実施しました。このキャリアセミナーは、身延高校との連携型中高一貫教育校としての取り組みの1つで、高校1年生が本校に来て、中学2年生に進路選択や上級学校、職業について学んだことを説明し、中学生が高校生から学ぶ行事です。高校生は「産業社会と人間」の授業で学んだことを基に、グループごとにテーマと課題をつくり、大学などの上級学校や様々な職業について、現地で見学させてもらったり、従事している方から直接話を聞いたりしながら、調べたこと、わかったことをまとめて発表してくれました。会場の体育館には「自動車整備士」「保育士」「消防士」「機械工学技術者」「助産師」「教師」の6つの職業と「帝京大学」「大原専門学校」の2つの上級学校の合計8つの高校生のブースがつけられました。中学生も8つのグループに分かれ、高校生のブースの中から3つを巡って発表を聞きました。職業のブースでは、職業の内容、必要な資格、その職業に就くための方法、職業のやりがいや課題について、上級学校のブースで



は、その学校の学部・学科や学べること、取得できる資格や卒業後の進路、施設設備、入学方法などについて、高校生が紙や模造紙にまとめた資料を使いながら説明してくれました。この日のために、時間をかけて資料を作成し、繰り返し発表の練習をしてきてくれたことがわかる発表でした。発表の後には質疑応答の時間があり、中学生も積極的に手を挙げて内容に関わる質問をしたり、高校生活や受験勉強について質問したりしていました。30数名の高校1年生が来てくれましたが、18名が本校の卒業生だったこともあり、とても和やかな雰囲気の中で中学生が高校生と触れ合う良い機会になりました。本校の卒業生たちが、高校生として立派に成長し、堂々と中学生に説明したり、後輩にアドバイスをしたりしている姿にも感動しました。



ゲーム・ネット安全利用教室

12月8日（木）に体育館で「ゲーム・ネット安全利用教室」を開催しました。今回は山梨県精神保健福祉センター所長で精神科医の志田博和先生が講師として全校生徒に話をしてくれました。講演の中で、印象に残った言葉を次に紹介します。

- ▶ ゲームには、君たちが毎日ゲームをしてくれるように様々な罠が仕掛けられている。（「ログイン・ボーナス」「ランキング」「同盟」など）
- ▶ （ゲームやネットのために、）本来やらなければならないことができなくなったり、もともと自分の好きだったことがどうでもよくなってしまったりするようなら、依存症を疑うこと。
- ▶ 精神科医として、中学生が（ネットやゲームを）利用するベストの時間は1時間がMAXである。
- ▶ 大人がスマホに依存している状態では、子どもに使うなどは言えない。家族でルールを作ることが大切。（「家族全員で、夜9時以降はネットは使わない」など）
- ▶ タブレットで見るよりも紙で見た方が、ネットで調べるより辞書で調べた方が記憶に残る。（筋肉を使わないと、体力が落ちることと同じ。使わないと神経細胞が機能低下を起こす）
- ▶ 依存症を注意するときは、「あなたは…をやめなさい」という言い方ではなく、「私は…あなたが…でもとても心配です」とI（わたし）メッセージで伝える。
- ▶ 「自立」するためには、家族で取り組むことが大切です。今日の話は是非、家族と話してみてください。



精神科医の先生のお話を聞く機会は少なく、とてもインパクトのあるお話でした。講演の後の質問コーナーでは、自分自身や家族の依存症や不安について真剣に尋ね、アドバイスをもらった生徒もいました。

資源回収

12月4日（日）に「資源回収」を行いました。この行事はPTAと生徒会主催の行事ですが、多くの町民の方々も古紙やアルミ缶などをこの日のために保管してくださったり、搬入してくださったりしています。今年度も、医療センター、十島駅、給食センター、旧西市製材所、万沢支所の5箇所の収集場所には、たくさんのお古紙、アルミ缶、古着などが集まりました。収益は、生徒たちの教育活動や部活動支援などに使わせていただきます。学校が町民の方々に支えられていることを改めて強く感じました。ありがとうございました。



地域清掃

12月1日（木）に福祉委員会主催の「地域清掃」を行いました。生徒たちが「地域とともにある学校」として、自分たちができる地域貢献活動の一つとして取り組んでいます。朝は登校時に通学路で見つけたゴミを拾って学校に持ってきます。放課後は、学校や諏訪神社周辺、医療センターから富士川の土手周辺、南部の商店街からアルカディア周辺を、部ごとに分かれてゴミ拾いを行いました。集めたゴミは福祉委員が学校で分別して処分しました。地域の一員としてできることに取り組んでいます。

